

2025 『ひょうごぼうさい建築祭 in 姫路』(播磨の国)

令和7年度 建築士の日 事業 実施報告書

【開催概要】

■事業の目的・趣旨について

阪神・淡路大震災から、30年。この30年間で、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震が発生し、多くの方が犠牲となった。さらに、気候変動に伴う豪雨被害が多発し、また南海トラフ地震は近い将来必ず起こるといわれている。公益社団法人 兵庫県建築士会では、兵庫県や県下の各市町と連携を取りながら、防災・減災について考える機会を設け、ひょうご五国を巡りながら災害に備える様々な準備・活動を行う。

■事業の背景・広報について

開催は、年1回（建築士の日の事業と位置づけ）、兵庫県五国+1の6ブロックを順に廻る。

※【播磨】・【但馬】・【丹波】・【摂津】・【淡路】+【神戸】の6箇所

新聞社など取材を通じて、広く兵庫県下の県民に発信する。

また、(公社)兵庫県建築士会・(一社)兵庫県建設業協会の活動を確実に広報し、会勢拡大にも繋げる。

■事業概要

◇ 事業名：「ひょうごぼうさい建築祭 in 姫路（播磨の国）」2025
令和7年度 建築士の日 事業

◇ 開催日：【講演会・展示等・相談会】2025年 8月31日(日)
【応急危険度判定士 実地模擬訓練】 " 10月 4日(土)

◇ 会場：【講演会・展示等・相談会】8/31
兵庫県姫路市本町68-290 「イーグレひめじ B1F アートホール」
【応急危険度判定士 実地模擬訓練】10/4
(座学会場) 兵庫県姫路市花田町小川553-2
「姫路市立高木総合センター」
(模擬判定会場) 兵庫県姫路市花田町小川241付近
「姫路市営高木住宅」

◇ テーマ：【講演会・展示等・相談会】8/31
※「減災・防災 今、できること！」
【応急危険度判定士 実地模擬訓練】10/4
※「応急危険度判定士」被災建物を想定して実地訓練（一般市民は見学）

◇ 主催：公益社団法人 兵庫県建築士会（災害対策委員会）

◇ 共催：公益社団法人 兵庫県建築士会 姫路支部

◇ 後援：兵庫県・姫路市・公益社団法人 日本建築士連合会

◇ 協力：一般社団法人 兵庫県建設業協会

◇ 参加費：無料

◇ 内容・参加者・申し込み方法など：事業ごとに後述

◇ その他：建築士会CPD認定事業（CPD申請は兵庫士会で一括申請します）

ひょうごぼうさい建築祭 in 姫路 【講演会・展示等・相談会】

【開催内容】

- ◇ 日 時：2025年 8月31日(日) 13:00～16:30
- ◇ 会 場：兵庫県姫路市本町68-290 「イーグレひめじ B1F アートホール」
- ◇ 内 容：
 - 【講演会】14:00～15:30 (受付 13:30～)
講 師：西影 裕一 氏 (はりま地盤・地震研究所 代表)
テーマ：「山崎断層と南海トラフ地震」
～瀬戸内の津波リスク、県内における土砂災害事例等～
 - 【展示等】13:00～16:30
『パネル展示』耐震補強事例など
『VTR上映』阪神淡路大震災の記憶
 - 【相談会】13:00～16:30 (受付 12:45～16:00)
『耐震に関する無料相談』建築士が住宅の耐震をアドバイス

- ◇ 開催状況



エスカレータ前から見た
アートホール入口の様子



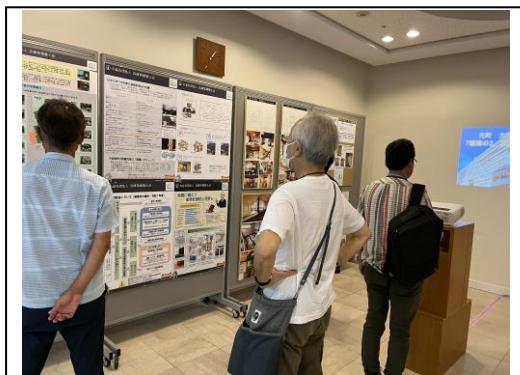
アートホール入口の受付の様子



受 付：
(一般受付・建築関連受付・CPD受付)



ホワイエ入口：
左はパネル展示、右はVTR用 Proj



ホワイエ入口：
左はパネル展示、右はVTR



ホワイエ正面：
VTR映像（阪神淡路大震災の記憶）



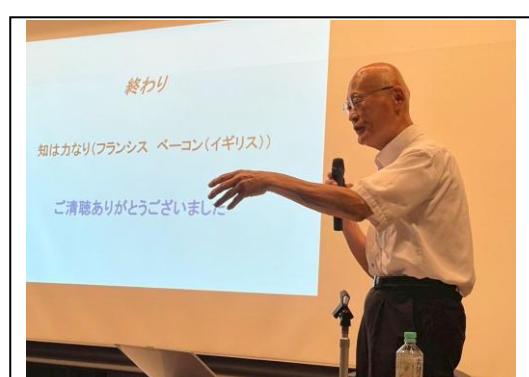
ホワイエ

相談会場：
両サイドが相談室



講演会会場の様子

司会：
(担当) 尾ノ井有佳子 氏



開会挨拶：
会長 正木恵子 氏

講 師：西影 裕一 氏
(はりま地盤・地震研究所 代表)



『コイル』を使って
縦波と横波の違いを説明される西影先生

『模型』を使って
断層の種類を説明される西影先生



謝辞・閉会挨拶：
委員長 渡邊一洋 氏



パネル展示：
建築士会活動状況説明

パネル展示：
耐震関係の啓発



パネル展示：
耐震改修事例紹介（その1）

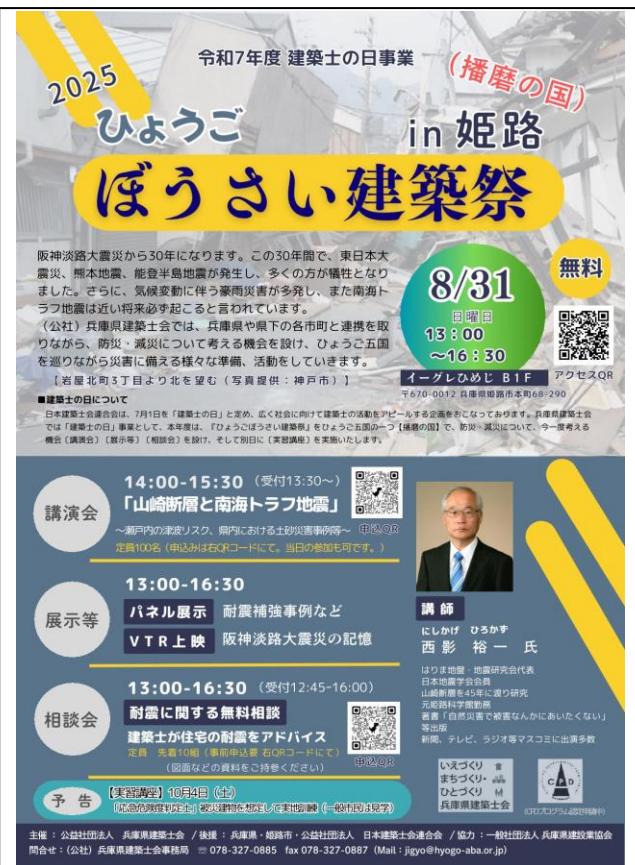
パネル展示：
耐震改修事例紹介（その2）



会の終了：手締め風景

反省懇親会風景

【開催案内チラシ】



【開催前 告知記事】

神戸新聞 2025.07.25掲載

・講師の西影裕一先生が、8/26に開催予定の講演会の告知用に、神戸新聞社取材を受けられ、8/31の（公社）兵庫県建築士会主催の「ひょうごぼうさい建築祭 in 姫路」事業の告知もして頂けることとなった。

【姫路市の後援】

・姫路市の後援のおかげで、幅広くPRすることができた。姫路市危機管理室へも後援挨拶に伺い、「ひめじ防災フォーラム2025」が同日・同時間帯・同会場で行われるので、当事業の告知も、Facebookに掲載して頂けることとなった。相乗効果が有ったのではないかと思われる

【来場者数】

- | | | |
|-------|----|-----------|
| ・一般 | …… | 47名 |
| ・スタッフ | …… | 16名（講師含む） |
| 計 | | 63名 |

【チラシ配布先】

※チラシ印刷……………2000部

- tsudoi 投函……………1300部
- 後援・協力等団体……………500部
- 講師関連団体……………150部
- その他……………50部

【tsudoi】

- お知らせ欄に掲載告知……………1回

あす防災講演会

姫路周辺の地盤 地形の特性解説

はりま地盤・地震研究会の西影裕一会長が、姫路周辺の地盤や地形の特性を解説し、自然災害の被害を抑える方策を紹介する。

城の西公民館 考える講演会「姫路・城西の地盤・地形と防災」家はどこに建てるといいか」が26日、姫路市立城の西公民館（同市岡町）である。

西影裕一会長は8月31日、午前10時～11時半。無料。定員45人。同公民館会議室で開催される「ひょうごぼうさい建築祭 in 姫路」で、問い合わせは県建築士会事務局まで。問合せは県建築士会事務局まで。講演は午後1時～4時。定員100人。による耐震無料相談もある。

「山崎断層と南海トラフ地震」をテーマに講演。瀬戸内海の津波リスクなどを解説する。会場では耐震補強のパネル展示や、建築士に

ひょうごぼうさい建築祭 in 姫路
【被災建物を想定した
『応急危険度判定士』実地模擬訓練】

【開催概要】

去る9月1日は『防災の日』、その前日の8月31日に標記「ひょうごぼうさい建築祭in 姫路（播磨の国）」が開催でき、講演会・パネルVTR展示・耐震相談会を通して、多くの方々に参加いただけた。

引き続き今年度は、「応急危険度判定士」の活動に取り組む。判定士の登録を済ませてから期間が経ち、判定基準の目的や調査方法・調査表の記載方法など当時の記憶を辿りたいという方に、模擬訓練を通して、今後益々期待される判定活動に繋げていくことを目的とする。

「応急危険度判定士」は、地震により被災した建築物について、その後の余震等による倒壊の危険性ならびに建築物の部分等の落下あるいは転倒の危険性をできる限り速やかに判断し、その結果に基づいて恒久的復旧までの間における被災建物の使用にあたっての危険性を情報提供することにより、被災後の人命に係わる二次的被災を防止することを目的としている。
そこで、「応急危険度判定士」の活動を通して、関係者並びに一般の方にも防災・減災について考え、更に「建築士の日」のことを広く知って頂くことを目的として、『【実習講座】応急危険度判定士 被災建物を想定した実地模擬訓練』を開講する。

【開催・募集内容】

- ◇ 日 時：2025年 10月4日(土) 13:00～16:20
- ◇ 会 場：【座学会場】「姫路市立高木総合センター」(2階)
(〒671-0255 兵庫県姫路市花田町小川553-2)
(集合場所 同上、受付2階 12:30～)
- 【判定会場】「姫路市営高木住宅」(判定家屋 2棟)
(〒671-0255 兵庫県姫路市花田町小川241付近)
- ◇ 受講資格：兵庫県被災建築物 応急危険度判定士登録者
- ◇ 受講料：無料
- ◇ 募集人員：20名程度（申込先着順）
- ◇ 申込期間：2025年9月17日（水）～2025年9月29日（月）
- ◇ 準備物等：判定登録書・ヘルメット・コンベックス・筆記用具・カメラ・雨具・水筒
・（マスク）・下げ振り（有れば）
(あった方が良いもの：軍手・携帯電話・ナップザック)
(あると便利：双眼鏡・ペンライト・ホイッスル・コンパス)

2025 『【実習講座】応急危険度判定士被災建物を想定した実地模擬訓練 』

カリキュラム

テーマ		時間 (分)	時刻 (予定)	講師等	内容及び目標
—	開会挨拶	5	13:00 ～	西嶋 宣久：兵庫県建築士会 副会長	*挨拶

1	座 学	60	13:10 ～	田中 聖人：兵庫県まちづくり部 建築指導課 防災耐震班	*被災建築物応急危険度判定士 の判定基準について *木造建築物の応急危険度調査 判定マニュアルについて
---	-----	----	------------	-----------------------------------	--

14:10～14:20 休憩（10分）

2-1	概要説明	10	14:20 ～	原 博元氏：兵庫県建築士会 兵庫県被災建築物 応急危険度判定士 代表	*判定会場説明 ・班分けについて ・判定調査について *ステッカーについて *判定報告について
2-2	判定訓練	60 (移動 含む)	14:30 ～ 15:30	原 博元氏：兵庫県建築士会 兵庫県被災建築物 応急危険度判定士 代表	*判定会場について (移動 往復15分程) ・班分けについて ・判定調査について *ステッカーについて* 判定報告について

15:30～15:40 休憩（10分）

2-3	調査結果 (班毎) 聞き取り・発表	40	15:40 ～	原 博元氏：兵庫県建築士会 兵庫県被災建築物 応急危険度判定士 代表	*調査票書き込み *各班の班長は聞き取りをする *班長はステッカー (2棟*2班) を提出 *班長から発表
2-4	講 評	10	16:20 ～	原 博元氏：兵庫県建築士会 兵庫県被災建築物 応急危険度判定士 代表	*各班の班長は聞き取りをする *班長はステッカー (2棟*2班) を提出 *班長から発表
3	アンケート	5	16:30 ～	兵庫県建築士 災害対策委員会	*判定経験・年齢・感想など
—	閉会挨拶	5	16:35 ～	渡邊 一洋：兵庫県建築士会 本部理事 災害対策委員会 委員長	*挨拶

【付近見取図 案内】



模擬判定会場 : 姫路市営高木住宅（木造平屋建）
(〒671-0255 兵庫県姫路市花田町小川1241付近)

座学会場 : 姫路市立高木総合センター（R C造3階建）
(〒671-0255 兵庫県姫路市花田町小川553-2)

【座学会場・判定会場 案内】



高木総合センター



2階の会議室A



2階の会議室C・D



【模擬判定会場】第一会場



【模擬判定会場】第二会場

◇ 開催状況



① 会場風景
(後ろに神戸新聞社記者も)



② 講義：判定基準・判定マニュアル
／講師：田中聖人 氏 (中央)
(兵庫県建築指導課 防災耐震班)



③ 講義：判定基準・判定マニュアル
／講師：田中聖人
(兵庫県建築指導課 防災耐震班)

④ 講義：概要説明
／講師：原 博元 氏 (兵庫県被災建築物
応急危険度判定士 代表)



⑤ 実地訓練
／A班 (遠景)
(石原・西嶋・林・佐々木・田中)



⑥ 実地訓練／A班 (近景)



⑦ 実地訓練
／B班（遠景）
(上中・尾ノ井・小西・坂上・山本)

⑧ 実地訓練／B班（近景）



⑨ 調査結果聞き取り
／A班
(石原・西嶋・林・佐々木・田中)

⑩ 調査結果聞き取り
／B班
(上中・尾ノ井・小西・坂上・山本)

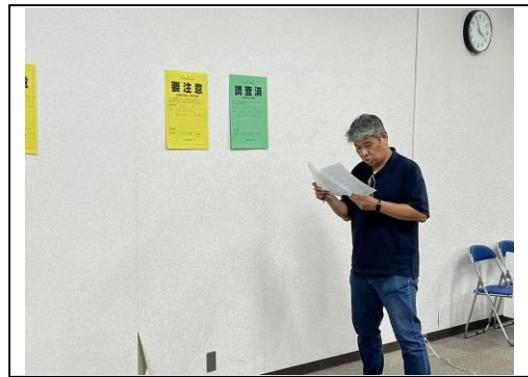


⑪ 発表準備／A班

⑫ 発表準備／B班



⑬ 発表／A班（佐々木 氏）



⑭ 発表／B班（山本 氏）

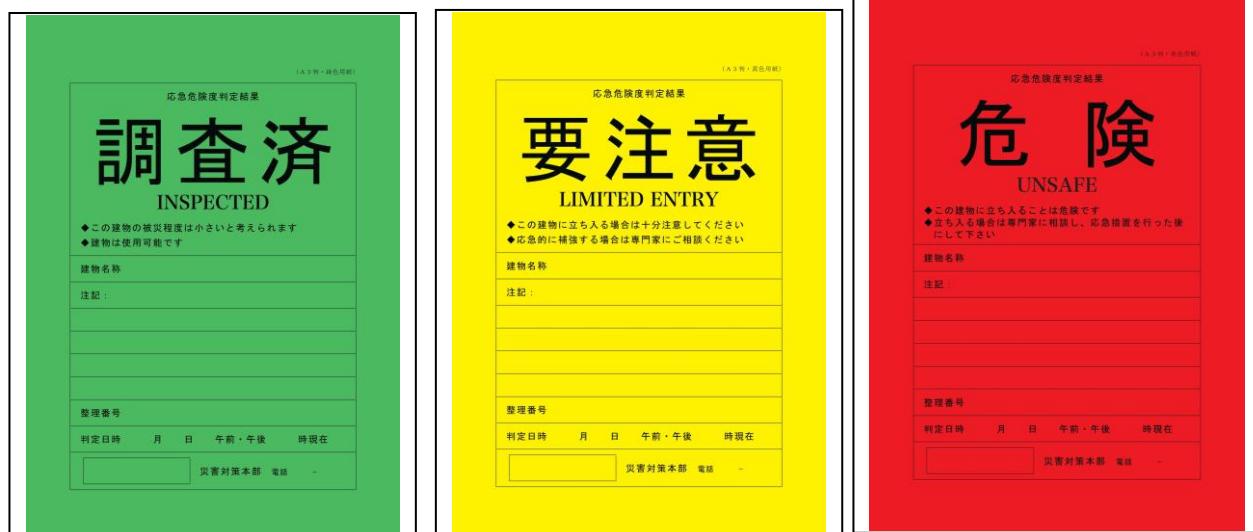


⑮ 訓練講評
／講師：原 博元 氏（兵庫県被災建築物
応急危険度判定士 代表）

【応急危険度判定調査表（木造版）】

木造建築物の応急危険度判定調査表			
整理番号	調査日時	月 日 午前・午後 時	調査回数 回目
調査者氏名(都道府県/N/o)		(/)	
建築物概要			
1 建築物名称	1.1 建築物番号	集計欄は数字で記入 木	
2 建築物所在地	2.1 住宅地図整理番号	整理番号	
3 建築物用途	1. 戸建専用住宅 2. 長屋住宅 3. 共同住宅 4. 併用住宅 5. 店舗 6. 事務所 7. 旅館・ホテル 8. 月替等公共施設 9. 病院・診療所 10. 保育所 11. 工場 12. 仓库 13. 学校 14. 体育館 15. 劇場、遊戯場等 16. その他()	建築物番号	
4 構造形式	1. 在来軸組構法 2. 枠組(堅)工法(ツバメ型) 3. ブレフアブ 4. その他()	住宅地図整理番号	
5 階 数	1. 平屋 2. 2階建て 3. その他()	3	
6 建築物規模	1階半柱 約 A_m ×イ_m	4	
調査 調査方法 : (1. 外観調査のみ実施 2. 内観調査も併せて実施)	5	階	
1 一見して危険と判断される。(該当する場合は○に付け危険と判定し調査を終了し総合判定～)	6	ア m	
1. 建築物全体又は一部の崩壊・落踏	2. 基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ	7	
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他()	調査方法	
2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度			
Aランク	Bランク	Cランク	
①隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険度	1. 危険無し 2. 不明確 3. 危険あり	①	
②構造躯体の不同沈下	1. 無し又は軽微 2. 著しい()、屋根の落ち込み、浮き上がり	②	
③基礎の被害	1. 無被害 2. 部分的	③	
④建築物の1階の傾斜	1. 1/60以下 2. 1/60~1/20 3. 1/20超	④	
⑤壁の被害	1. 軽微なひび割れ 2. 大きな亀裂、剥離	⑤	
⑥腐食・錆害の有無	1. ほとんど無し 2. 一部の断面欠損	⑥	
危険度の判定	1. 調査済み 全部Aランクの場合 (要 内観調査)	判定	
3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度			
Aランク	Bランク	Cランク	
①瓦	1. ほとんど無被害 2. 著しい()	①	
②窓枠・窓ガラス	1. ほとんど無被害 2. 並み、ひび割れ	②	
③外装材 湿式の場合	1. ほとんど無被害 2. 部分的なひび割れ、隙間	③	
④外装材 乾式の場合	1. 目地の亀裂程度 2. 板に隙間が見られる	④	
⑤看板・機器類	1. 傾斜無し 2. わずかな傾斜	⑤	
⑥屋外階段	1. 傾斜無し 2. わずかな傾斜	⑥	
⑦その他()	1. 安全 2. 注意	⑦	
危険度の判定	1. 調査済み 全部Aランクの場合 (要 内観調査)	判定	
総合判定 (調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大い方の危険度で判定する。)			
1. 調査済(緑)	2. 要注意(黄)	3. 危険(赤)	総合判定
コメント (構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)			
コメントは判定ステッカーの注記と同じとする。			

【判定ステッカー（緑・黄・赤）】



【模擬実地訓練後のアンケート】

10/4(ひょうごぼうさい建築祭in姫路 実地模擬訓練)訓練後アンケート集計

2025.10.25

公益社団法人 兵庫県建築士会
災害対策委員会

先日の実地模擬訓練後のアンケートを集計しました。

■回答者の属性

1. 判定士の登録は、どこでされていますか？
 ① 兵庫県 ② 他の都府県 ③ その他
2. 判定士の所属団体は、どこですか？（あれば記載ください。）
 ① 兵庫県建築士会 ② その他の建築団体 ()
 ③ 地方公共団体職員 ④ 防災士など
3. 被災地での判定経験はございますか？
 ① 有り ② 無し
4. ご年齢は？
 ① 20代 ② 30～40代 ③ 50～60代 ④ 70代以上
5. 判定士の登録年数は？
 ① 1年未満 ② 1～5年 ③ 6～10年 ④ 11年以上

■本日の訓練について

1. 本日の模擬訓練の内容はいかがでしたか？
 ① 非常に満足 ② 満足 ③ 普通
 ④ 不満 ⑤ 非常に不満 ⑥ その他 ()
2. 本日の訓練活動の概要は理解出来ましたか？
 ① よく理解できた ② 理解できた ③ 普通
 ④ やや ⑤ 理解できなかった
理解できなかった
3. 本日の判定作業は理解出来ましたか？
 ① よく理解できた ② 理解できた ③ 普通
 ④ やや ⑤ 理解できなかった
理解できなかった
4. 訓練の参考要請連絡手段は、どのような方法がよいと思いますか？（複数選択可）
 ① 兵庫県から
一斉メール ② ホームページ
による周知 ③ 電話連絡
 ④ その他 ()
5. 本日の訓練について、良かった点、改善点や不明点等がございましたら、
ご記入ください。
()
6. その他、ご意見やご要望、ご提案などがございましたら、ご自由にご記入ください。
()

以上、ご協力ありがとうございました。

【アンケート集計（P.1）】

10/4(ひょうごほうさい建築祭in姫路 実地模擬訓練)訓練後アンケート集計

2025.11.11

公益社団法人 兵庫県建築士会
災害対策委員会

先日の実地模擬訓練後のアンケートを集計しました。

■回答者の属性

1. 判定士の登録は、どこでされていますか？

①	兵庫県	10	②	他の都府県	0
③	その他	0			

2. 判定士の所属団体は、どこですか？（あれば記載ください。）

①	兵庫県建築士会	9	③	地方公共団体職員	0
②	その他の建築団体	1	④	防災士など	0
(事務所協会)					

3. 被災地での判定経験はございますか？

①	有り	2
②	無し	8

4. ご年齢は？

①	20代	0	③	50～60代	10
②	30～40代	0	④	70代以上	0

5. 判定士の登録年数は？

①	1年未満	1	③	6～10年	1
②	1～5年	1	④	11年以上	7

■本日の訓練について

1. 本日の模擬訓練の内容はいかがでしたか？

①	非常に満足	5	④	不満	1
②	満足	3	⑤	非常に不満	0
③	普通	1	⑥	その他（ ）	0

2. 本日の訓練活動の概要は理解出来ましたか？

①	よく理解できた	5	④	やや理解できなかった	1
②	理解できた	4	⑤	理解できなかった	0
③	普通	0			

3. 本日の判定作業は理解出来ましたか？

①	よく理解できた	4	④	やや理解できなかった	0
②	理解できた	6	⑤	理解できなかった	0
③	普通	0			

4. 訓練の参考要請連絡手段は、どのような方法がよいと思いますか？（複数選択可）

①	兵庫県から一斉メール	8	④	その他	1
②	ホームページによる周知	1			
③	電話連絡	0	④	(姫路市からの一斉メール)	

【アンケート集計（P.2）】

5. 本日の訓練について、良かった点、改善点や不明点等がございましたら、ご記入ください。

*	実際の建物を判定することができて良かった。
	準備等ありがとうございました。
*	講師に方が、親切にご指導いただいた。
*	倒壊しかけの建物であれば、更に訓練になった。
*	「斜面地は調査に入れない」（と共有できればよかったです。）
*	（実地模擬訓練は…）4月（に）調査出来る様お願いします。
*	県の資料が分かりやすいので、SやRC造なども開催して頂きたい。

（掲載は、順不同です）

6. その他、ご意見やご要望、ご提案などがございましたら、ご自由にご記入ください。

*	市民の方にも、（もっと）多く見学していただけたら良かったと思います。
*	兵庫、姫路市、建築士会の連携・連絡の構築をして次に（進めて下さい。）
*	判定士が必要な時に、情報や連絡が早く伝わるのか疑問に感じました。
*	告知やPRの方法を、（今後、もっと）検討していきましょう。
*	士会よりの要請を考えて頂きたい。 まずに市民に役立つ士会に！

（掲載は、順不同です）

以上、ご協力ありがとうございました。

【開催案内チラシ】



2025

令和7年度 建築士の日事業 (播磨の国)

ひょうご ぼうさい建築祭 in 姫路



被災建物を想定した 実地模擬訓練 『応急危険度判定士』

10/4

土曜日

13:00

~16:20

無料

■被災建築物応急危険度判定とは

△目的（応急危険度判定基準より）
応急危険度判定は、地震により被災した建築物について、その後の余震等による倒壊の危険性ならびに建築物の部分等の落下あるいは転倒の危険性をできる限り速やかに判断し、その結果に基づいて恒久的復旧までの間ににおける被災建築物の使用にあたっての危険性を情報提供することにより、被災後の人命に係わる二次的被災を防止することを目的とする。

■建築士の日について

日本建築士会連合会は、7月1日を「建築士の日」と定め、広く社会に向けて建築士の活動をアピールする企画をおこなっております。兵庫県建築士会では、「建築士の日」事業として、本年度9月31日に「ひょうごぼうさい建築祭」をひょうご五県の一つ【播磨の国】で、防災・減災について、今一度考える機会【講演会】【展示会】【相談会】を行いました。そして10月4日に上記「被災建物を想定した『応急危険度判定士』実地模擬訓練」を実施いたします。

開催地

集合場所/座会場 姫路市立高木総合センター
(受付 12:30~) (〒671-0255 兵庫県姫路市花田町小川1553-2)
模擬判定会場 姫路市営高木住宅



申込み方法など

定員（判定士）先着20人（〆切9/29 申込を右QRコードにて）
一般見学者 約20名（申込みは、当日・QRコード、共に可です）

準備物など

判定登録書・ヘルメット・コンベックス・筆記用具・雨具・水筒・（マスク）など
(別途、受講者申込書兼カリキュラムがありますので参考ください)

主催：公益社団法人 兵庫県建築士会 / 後援：兵庫県・姫路市・公益社団法人 日本建築士会連合会 / 協力：一般社団法人 兵庫県建設業協会
問合せ：(公社) 兵庫県建築士会事務局 ☎ 078-327-0885 fax 078-327-0887 (Mail: jijo@hyogo-aba.or.jp)

【開催後掲載記事】

神戸新聞 2025.10.13掲載



2025年(令和7年)10月13日 月曜日

神戸新聞

被災家屋の危険度見極め 腕磨く

地震に遭った建築物の倒壊や落下物などの危険性を判定する「応急危険度判定士」を対象にした講習会と模擬訓練が、姫路市立高木総合センター（同市花田町小川）などで開かれた。判定士の資格を持つ建築士ら12人が、被災地で必要となる知識や技術を確認した。

判定士は被災した建築物について国や県が策定した基準を基に危険性を判断。「要注意」「危険」などと記されたステッカーを掲示し、余震による建物倒壊などの二次灾害を防止する。

兵庫県の判定士登録制度は1997年に始まり、今年7月末時点では在住または在勤の約2700人が登録されている。

講習会と訓練は、公益社団法人 兵庫県建築士会が主催。同センタ

花田町、判定士の講習会と模擬訓練

一で行われた講習会では、床の沈下具合や瓦、窓ガラスの落下リスクから建物の危険性を評価するなどの判定基準を、県の担当職員が説明した。

訓練は、同市から使用許可を受けた木造平屋の市営住宅2軒を被災した家屋に見立てて行った。参



加者は垂直測定器やメジャーを使って柱の傾斜を測ったり、基礎部分のひび割れの程度を確認したりした。同センターに戻り、判定とその理由を説明し合った。

参加した山本幸治さん（52）＝明石市二見町東二見＝は「短い時間の中でどこを見て判断すれば良いかなど、実地での動きを知ることができた。災害時にも役に立てる自信がついた」と話した。

（船田翔太）

地震に遭った想定の家屋の前で、基礎部分のひび割れの程度などを確認する参加者ら＝姫路市花田町